

人権の大切さと自分にとってのいじめ

守山小学校六年 永田 喜

ぼくは、自分のことを弱いと思っています。自分の意見が通らなかつたり、自分の意見と同じように言ってよこどりされたり、そうするとすぐ怒ったり泣いたりしてしまいます。そうなったのは、昔の出来事がきっかけです。

三年前、ぼくは小学三年生でした。転校してうきうきな気分で学校に行きました。でも、それが自分の人生最大と言っていいほどの辛い経験のはじまりでした。基本的にいじめは、集団での悪口いやがらせ、暴力や無視などいろいろなことが世間で問題になっていきます。ぼくは、登校班の中でいじめられていました。首をしめられたりあおられたり、雑にあつかわれたりされていました。兄ちゃんも同じようなことがあり、つくえに集団で消毒をされたり、休み時間にはクラスに入って足をふんだり、そういうことがたくさんありました。

みなさんの中には「学校でいじめなんて当たり前だろ」とか「そんなことがいじめに入るの」とかいろいろな考えの人がいます。しかし、昔のいじめの経験がある自分からすると、いじめは小さくても、いじめはいじめだということです。

ぼくが、四年生の時、友達がある二人にいじめられているのを見ました。ぼくは、それを見た時に助けにいきましたが、その二人に、「ヒーロー気取りかよ」と言われたのを忘れることはないです。い

じめには、無視やさけるといったものもあります。それをしてしまう人はその人を嫌っているからだと思います。たしかに、だれにでもこの人が苦手だなあーとかはあると思います。ぼくは別にそういうのはありえると思いますが、意図的にさけたり、相手が不快に思う行動はしない方がいいと思います。

いじめはどの世代の人でもあると思います。学生だけでなく仕事をしている大人達にもあると思います。その中で一番分りずらく大人達も気づかないのは、中学生や高校生だと思っています。中学生になると頭を使ったり、高校生は、クラス全員でいじめをしたりすることがあります。そして先生達は、意外にも気づきにくく、分かっていても見て見ぬふりをする先生もいるそうです。

ぼくがこの人権作文で伝えたい事は、困った時は、人をたよったり、もしもいじめられている人がいたらこわがらないで先生をたよったりして助けてあげてください。いじめを受けた人々は、心が本当に弱っていて、でもがんばってトラウマと戦っています。そういう人達の気持ちによりそったりして支えてください。そして自分はいじめをしていないと思っていますかもしれない。そんな人達もこれからは、言葉や行動、態度などを見直してみてください。最後に、自分はいじめをとでもきらっています。人権というものは、自分らしく、自由に生きる権利があると考えています。みなさんも人権と

いじめのことについて考えてくれたらうれしいです。そうすることで誰もが生きやすい世の中になることを願っています。